

●カラー作品●アメリカ映画●日本語版<ナレーター小林恭二>

カタストロフ

世界の大惨事



東宝東和提供

スーパー・スペクタフル・ドキュメント

CATASTROPHE

ご入場の際はあらかじめ
出口を確かめて下さい—

* 心臓の弱い方は入場できません！



スーパー・スペクタクル・ドキュメント

●カラー作品●アメリカ映画<リアルに再現する特殊音響方式>

カストロフ

世界の大惨事

だれも憶えていたくない！

世界各国で失神者続出！
上映禁止！
アメリカではTVCF
その他広告一切禁止地域もでた！
冷酷なカメラだけが知った20世紀の
カタストロフ(破局)！

スタッフ

製作... ボール・A・ジョゼフ
監督・脚本... マルク・レヴィンソール
編集... ラリー・サバドブ
音楽... ティー・ベントラー
音響効果... レイ・エリス
ローレン・ミッチェル

◆解説

たとえ心臓が止まりそうになっても、あなたは目をそむけることができない。

地震、ハリケーン、津波、竜巻、干ばつ、などの異常な自然現象、あるいは火災、交通事故、航空、海上でのアクシデントなど次々とする20世紀の驚異的な大事件の(現場)を捉えた世界初のスーパー・スペクタクル・ドキュメント。

誰れもが恐れるのき、しかも目撃しないではいられない数々の恐るべき現実、出来事、大惨事。映画は今なお人々の記憶に生々しいサンフランシスコ大地震から始まって、フロリダ沿岸のハリケーン、飛行船ヒンデンブルグの悲劇、エトナ火山の大噴火、アメリカ西部の黄塵パニック、オハイオ州の大竜巻、インディアナポリスのF1レースの重大事故、豪華客船アンドレア号の衝突、サンパウロの超高層ビルの大火災、原子力発電所の危険きわまりない事故など、人間社会を襲うさまざまな災害の全貌を追って行く。

世界各地で起きたこれら出来事のショッキングで、思わず目を覆いたくなる決定的瞬間の数々。あまりに恐ろしい光景ゆえに、これまで未公開だったフィルム、個人のものとして埋もれていた貴重な記録、あるいはニュース・カメラマンの決死的撮影による驚異のドキュメント・フィルム等、世界中から集められた膨大な資料を厳密にセレクトして構成しただけに、その内容は言語を絶する迫力で、これ以上、人間の持つ「恐いもの見たさ」の心理を大きく刺激するフィルムは絶対あり得ない。この点、かつての「グレート・ハンティング」などその比ではない映像の洪水だ。

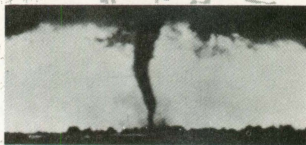
カタストロフとは日本語で、悲劇的な結末、破局という意味で、この一篇はまさしく人類のこれから起り得るカタストロフを冷酷に予感する恐るべきドキュメンタリーとして、多くの観客を揺さぶるにちがいない。

カタストロフの証言

- 私はなぜか英雄になってしまった。
ただラッキーなだけだったのに……。
- エトナ火山は長い間、我々にどう煙による繁栄を与え、いまその代償を求めにやってくる。
- 私たちの町は破壊されたのではない。
無くなってしまったのだ。
- 何も言うことはないわ。
実際に被害にあった人にしかわからないわ。
- だしかに家はここだだった。
そしてしばらくは両親を捜している。
- 観客は、われわれのテッド・ヒートを見ている。
そしてレースの事故をも見ている。
- 自然には規則性がある。
人間はただそれを知らないだけだ。

<主な内容>

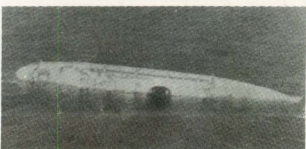
■アメリカ11州を襲った大竜巻
南部からカナダへかけて320人の命を奪った。



1974年4月3日、アメリカ各地を連続して襲った春の大竜巻は、4日昼ごろまでに、南部ジョージア州からカナダにかけて死者320名を出した。

けが人は数千人、損害は数億ドルにのぼると見られ、二日続きの竜巻は50年ぶり。オハイオ州ではゼイラ市で偶然にも、テレビでその恐ろしい瞬間がキャッチできた。2千世帯以上が破壊され、死者33人、負傷者約千人という被害だった。最も多い死者を出したのはケンタッキー州で、4日朝までに分ったのだけで死者77人、けが人は数百人。その他、アラバマ州では69人、インディアナ州では63人、テネシー州では56人、ジョージア州では15人のそれぞれ死者を出した。

■イタリア豪華客船米東海岸で衝突／アンドレア・ドリア号濃霧に沈没。



1956年7月25日午後11時20分ごろ、アメリカ太平洋岸ナタキット島南方45マイルの沖合で、イタリアが誇る最大の豪華客船アンドレア・ドリア号(29,000トン)とスウェーデンの客船ストックホルム号(12,600トン)が濃霧のため衝突、アンドレア・ドリア号は船腹に穴をあけられ、翌26日午前10時9分沈没した。同船には乗客1,134名と船員を合せて1,635人が乗っていたが、沈没1時間前に全員が救出された。しかし、衝突のため数百名が負傷(重傷6名)、4名が死亡した。

■サンパウロの銀行ビル火災の大惨事。死者220人を出した悲惨な状況。



1974年2月1日午後2時頃、ブラジルの経済の中心であり、南米でも屈指の近代都市であるサンパウロ市の中心街にある25階建ての銀行ビル、ジョエルマ・ビルから火災が発生した。一瞬の内に猛火はプラスチック内装の14階以上を包み、逃げまどう人々は、屋上に向かって避難したため、逆に多くの犠牲者を出す結果となってしまった。救済のヘリコプターも、熱気と煙のためビルに近づくことも着陸もできず、人々は力尽きて飛び降りていった。25階建てでありながら、非常階段がなかったことも大きな原因となり、死者は、220人に達し、250人が病院に運ばれた。

■アメリカ史上最大のハリケーン
ミシシッピ州だけで20万人の家を奪う！



1969年8月18日早朝、メキシコ湾に発生した大型ハリケーン「カミル」は最大風速80メートルを記録し、約6メートルの津波を伴い、アメリカ南西部の各州を襲った。

カミルは、過去百年間最大のハリケーンとして記録を残し、400人以上の人が死に、40万人が家を奪われ、被害総額10億ドルにも達した。回復作業は、五年以上を費やした。

■ドイツの誇る世界最大の飛行船
ヒンデンブルグ号、アメリカで爆発炎上！



飛行船ツェッペリン伯爵号で世界一周をなしとげたドイツが、その技術の粋を集めて次に完成させた「ヒンデンブルグ号」は、時速130キロで航続距離1万3千キロ、全長248.7メートル、直径41.2メートル、19万立方メートルで乗員50名、旅客50名という巨大なもので世界中をアツといわせた。

ドイツと南北アメリカを結ぶ定期航空路についたヒンデンブルグ号が巨大な氷山を眼下に、ニューヨークを巡航し、着地のレークハースト飛行場に姿を見せたのは1937年5月6日だった。70メートルの所で静止し、地上の人がロープをつかんだ時だった。後部モーターのあたりが突然、爆発した。一瞬にしてヒンデンブルグ号は火のかたまりとなって地上に落下した。乗員61名の内、22名。乗客36名の内、13名。計35名が死亡した。

■インディアン死のF1レース！



1973年5月28日、第57回インディアン500マイルレースは、異常な興奮の中で迎えた。83台がエントリーに出場、結局、33台が決勝レースへ残った。第一回予選で、ベテランのA・ボラードがフェンスへ激突。47人の犠牲者を出した。決勝レースも、第一ラップに入ったばかりで、サルト・ウォルサーが観客席のフェンスへ激突、数十名の観客も負傷し、ウォルサーも重傷。

2日目、3日目と事故が続く。58回目のラップで、雨ですべりやすくなったレース場のNo.4のターンでサバージはコントロールを失って激突死。かけつけた整備員アルマンド・テランもまきこまれて死亡。